

プロフィール

宮川康子(みやがわやすこ)

1953年東京都生まれ。1977年神戸大学文学部卒業。

1992年大阪大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学。

専門は日本思想史、千葉大学、京都産業大学で教鞭を取る。

2020年に京都産業大学を退職。2022年大阪中央区糸屋町に自身

の蔵書を展示し自由に読んでもらえるブックカフェ「哲学 cafe 懐徳堂」をオープン。読書会や市民講座なども開いている。

大学時代から大阪の町人学問所懐徳堂の研究に従事し、その後町人学問所の源流ともいえる京都の古義堂の研究も進めてきた。

主著は、「富永仲基と懐徳堂」(ペリカン社)「自由学問都市大阪」(講談社メチエ)

千葉大学留学生センター助教授、京都産業大学文化学部教授を経て、現在京都産業大学名誉教授。専攻は日本思想史。



※哲学 cafe 懐徳堂

<https://www.cafe-kaitokudo.com/>

荒谷大輔(あらやだいすけ)

慶應義塾大学文学部教授、江戸川大学名誉教授。

専門は哲学／倫理学。主な著書に『贈与経済 2.0 お金を稼がなくても生きていける世界で暮らす』(翔泳社)

『資本主義に出口はあるか』(講談社現代新書)、『ラカンの哲学: 哲学の実践としての精神分析』(講談社選書メチエ)、

『「経済」の哲学: ナルシスの危機を越えて』(せりか書房)、『西田幾多郎: 歴史の論理学』(講談社)、

『使える哲学: 私たちを駆り立てる五つの欲望はどこから来たのか』(講談社選書メチエ)など。



※贈与経済 2.0 (現代ビジネス)

<https://gendai.media/articles/-/124228>

※翔泳社

<https://www.shoeisha.co.jp/book/detail/9784798184159>

星覚(せいがく)

雲水。1981年日本人学校で教師をしていた両親のもとシンガポールで生まれ、帰国後は鳥取県米子市で小中高校生活を送る。大学在学中に禅の修行に興味を持ち出家、曹洞宗大本山永平寺で雲水(禅の修行僧)生活を始める。以後、中国、アメリカ、ポーランド、ドイツなど多くの海外道場に参禅。坐禅指導を中心に、禅の暮らしを世界に伝えている。



※星覚氏の紹介(横田老師のブログから)

<https://www.engakuji.or.jp/blog/36372/>

野見山広明(のみやまひろあき)

一般財団法人徳積財団副理事、株式会社カグヤ代表取締役社長、徳積堂場の道場長、聴福庵庵主、守静坊坊主等、遊行の百姓。その他、国立大学法人九州工業大学アドバイザーボードメンバー等。



懐かしい未来を実現し、未来から逆算してつくる子どもた

ちの憧れる今を創造し道を拓くための「暮らしフルネス」を場で実践する。また1000年後の未来から今をどう振舞うかを場や古民家の甍生を通して可視化する(現8軒ほど手掛け甍生)。徳積堂カフェによる日本的な徳積活動の啓蒙、地域伝統在来種の保存とリブランド。飯塚ブロックチェーンストーリー構想発起人。徳が循環する経済の仕組みをブロックチェーンで開発(徳積帳)、福岡ブロックチェーンアライアンスのボードメンバー。英彦山最古の宿坊を甍生し、遊行や仙人苦楽部など楽しくお山で豊かに安らかに隠居して心を磨いている。

※一般財団法人 徳積財団

<http://www.tokutsumi.or.jp>

※株式会社カグヤ

<http://www.caguya.co.jp>

正田英樹(しょうだひでき)

株式会社 chaintope 代表取締役 CEO。山口県光市出身。九州工業大学情報工学部卒業。九州工業大学客員教授。1999年7月、株式会社ハウインターナショナル創業。2015年頃より共同創業者の故・高橋氏、現CTOの安土氏らと共にブロックチェーンの研究開発をスタートし、早期から社会実装に向けた取り組みを始める。2016年



12月、ブロックチェーンに特化して事業を進めるべく株式会社 chaintope を設立。ブロックチェーンを用いた自律分散型の新たな社会モデルの構築をモットーに様々な分野でのブロックチェーン実装に向けて日々奔走。

※株式会社 chaintope

<https://www.chaintope.com/team/>

清水義晴(しみずよしはる)

1949年、新潟県新潟市生まれ。早稲田大学法学部卒。卒業後、家業の印刷会社に勤める。26歳のとき、父親(社長)の突然の死によって若くして(株)博進堂の代表取締役となり、教育・デザイン・美術・出版など次々と新事業に取り組む。懸命に経営にあたっていたある日、社員たちから反発を受けたことをきっかけに、「人間尊重」を根底に据えた企業のあり方を模索し、様々な企業改革を進める。



1984年に森の共育実修所「点塾」を設立し、「教えない教育」をコンセプトに固有のプログラムを開発。38歳で経営をバトンタッチし相談役となる。2年間、現代美術の「創庫美術館・点」の運営などに携わった後、「えにし屋」という屋号で全国のまちづくりやコミュニティづくりに貢献。その活動は、学校や教育、福祉や介護、企業などへも発展し、幅広い分野での事業プロデュースを行う。活動の多くに独自のワークショップ手法や自らが考案した「未来デザイン考程」を取り入れ、数々の大きな成果を残す。また、持ち前の鋭い洞察力によって、精神障がい者の自立支援施設「べてるの家」や河田珪子氏の「地域の茶の間」を全国へ伝える橋渡し役も果たす。2002年には新潟市長選挙の選対本部長を務め、まちづくりの手法を取り入れたボランティアによる選挙活動によって、新聞記者だった新人の立候補者を見事当選へと導く。

2006年、和歌山での講演中に脳出血で倒れ、車椅子の生活に入るも、多くの人の支えと情熱によって元気を取り戻し、多方面で精力的に活動。入院中に「新潟を日本一の福祉都市にする」という新たな目標ができ、関連書を次々と出版する。これらの一連の実績が、映画「降りてゆく生き方」(武田

鉄矢主演・2009 年公開)の関係者の目にとまり、ストーリーのベースとなるとともにエグゼクティブプロデューサーを務め、映画出演も果たす。「物事は何でも始めは一人です。世の中を良くするのも、悪くするのも、ただこの一人からです」というセリフは、自身のこれまでの歩みから生まれてきた言葉であり、自らが編集長を務める雑誌『動』の根底に流れる思想でもある。

また、町に、人の心に、事業に火をつけることから「点火人」と呼ばれ、20 年以上に渡って企業や起業家の人材育成、まちづくりコーディネーターやファシリテーター、学校教育コーディネーターの育成に携わり、現在では多くの人が育ち、全国各地で成果をあげている。2014 年からは「企業教育」という分野を開拓しようと、新たに企業教育コーディネーターの育成に取り掛かり、テキスト『ソクラトン』の開発、講座のプロデュースなどに力を注いでいる。2024 年 7 月 28 日永眠

著書に『変革は弱いところ、小さいところ、遠いところから』『集団創造化プログラム』『経営創造化プログラム』『理念空間の創造』『経営つれづれ草』などがある。現在「えにし屋」主宰、「特定非営利活動法人 在宅介護支援協会」理事長、株式会社博進堂 顧問。

※点塾（故清水義晴）

<https://www.hakushindo.jp/company/tenjuku/>

施設紹介

懐徳堂(かいとくどう)

享保9年(1724年)、大坂の豪商たち(三星屋武右衛門・富永芳春(道明寺屋吉左右衛門)・舟橋屋四郎右衛門・備前屋吉兵衛・鴻池又四郎)が出資し三宅石庵を学主に迎えて船場の尼崎町一



丁目(現在の大阪市中央区今橋三丁目)に懐徳堂を設立した町人による私塾。

享保11年(1726年)、将軍徳川吉宗から公認されて官許学問所となり、学校敷地を拝領する。官許は得たもののその後の運営の財政面は町人によって賄われ、懐徳堂が「町人の学校」と呼ばれる所以となる、詳しくは下記リンクより。

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitokudo/kaitokudo/>

※懐徳堂研究センター

<https://www.let.osaka-u.ac.jp/kaitoku-c/kaitokudo.html>

※懐徳堂研究会

<https://www.kaitokudo-kenkyukai.org/>

※懐徳堂記念会

<https://kaitokudo-kinenkai.jp/>

※WEB 懐徳堂

<http://kaitokudo.jp/Kaitokudo/navi/index.html>

【懐徳堂に関する方々】

三宅石庵(学主)、中井鶯庵(預人・学主)、三宅春楼(学主)、中井竹山(預人・学主)
中井蕉園(預人)、中井履軒(学主)、中井桐園(預人・教授)、並河寒泉(預人・教授)
小山伯鳳、五井蘭洲(助教)、井上赤水(助教)、並河誠所(助教)、中井柚園
中井天生、並河蜚街(助教)、山村卯之助(助教)、藤戸寛斎(助教)、稻垣菊堂(助教)
草間直方(門人)、富永仲基(門人)、山片蟠桃(門人)、加藤景範、入江育斎
佐藤一斎(門人)、丸川松陰(門人)、上田秋成、脇蘭室、前川虚舟、山田孝堂(門人)
岡本隆吉(門人)、大塩平八郎(門人)、年梅寛之(門人)、麻田剛立

徳積堂(とくつみどう)

2020年に設立された徳積財団の本拠地。飯塚市有安にあり日本の古材や捨てられた家具や建具などを甦生して建築された場。敷地内には、場の道場(BA)、伝統石風呂祐徳大湯殿、ブロックチェーン神社(妙見)や自然農畑などがあり、古くて新しいハイテクハイタッチの暮らし方、生き方、実践方法などを伝承する実験場となっている。

※徳積堂の場体験

[徳積堂の場体験 | 徳積財団 \(tokutsumi.or.jp\)](https://tokutsumi.or.jp)



場の道場(ブロックチェーンアウェイクニング)

道場というのは、古来より稽古をしたり自己研鑽をする場所のことです。むかしは、学ぶことは道を歩むことでしたが時代が変わって価値観が変わると学ぶことは知識をたくさん持つことに変化しました。情報があり便利な世の中では、手段や方法は進化していきま

したが場はどうかというと失われていきました。本来、人が育つのは場があるからです。場というのは、いきものたちが健全に安心立命し育つためには欠かせない大切な環境です。その場をどのように創造するのか、そして磨くのか、それを体験し気づくことが真の教育だと私は考えて場の道場と命名しました。

同時にこの場所は、夭折した同志で友の高橋剛さんの遺志を受け継ぎブロックチェーンの場を創造することにしています。BA(Blockchain Awakening)と名付け、この場所から「真心の技術者」を育成していきたいと思います。ブロックチェーンを乾没で使うのではなく、経世済民で活かすことができるように徳が循環し可視化するブロックチェーンシステム、「徳積帳」を開発して運営する場でもあります。

※BAの場体験

[BAの場体験 | 徳積財団 \(tokutsumi.or.jp\)](https://tokutsumi.or.jp)

